

【地域包括支援センター】

不足している支援や仕組みはどのようなものとお考えですか。

1	本人の抱えている社会的な役割について支援する仕組みや、モデルが必要だと思う。
2	介護保険サービスは高齢者の利用が多く、その中へ入っていくことに抵抗を示されることがある。本人も家族も日常生活の能力を取り戻してほしいと思うことが多く、アクティビティ中心のデイサービスでは物足りない。町内には認知症に特化したデイサービスはないので「ボランティアとして参加」を促しているが、本来は本人の能力を引き出す工夫ができる場所が必要である。
3	・若年認知症の人が日常の様々な支障に対する相談ができる場が近くにある。 ・家族のフォローができる(親、配偶者、子どもに対して)。 ・若年認知症の人が気軽に参加できる場がある(作業所のような雰囲気)。
4	・家族の精神的ケアが受けられる所。 ・本人、家族及び本人らを取り巻く環境において、認知症(特に若年)の知識が乏しく理解が得られにくい。 ・在宅生活を継続していくために利用できるサービス、生きがいづくりの場。
6	地域での助け合いの構築。専門医療機関の不足。専門的介護サービスの不足。若い人でも気軽に相談できる窓口(雰囲気、受付時間)。
7	若年に限った話ではないが、かかりつけ医との連携。認知症について地域のない医師が多い。医師会自ら認知症の早期発見・対応について取り組んでもらいたい。
8	・若年認知症の方を受け入れる環境と力量を備えた介護サービス事業所。 ・地域住民や兄弟、親戚等が認知症について理解を深められる仕組みづくり(まちづくり)。 ・インフォーマルサービスの開発(地域での見守りネットワーク)。
9	住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができるような支援体制をつくるため、啓発やネットワークづくりを行っていく必要がある。
10	若年認知症の家族会など本当にわかってくれる機関が少ない。生活面がたちまち困難、経済的支援。仕事につけない状態で認知症が進むのに、手帳など障害認定の施策がない。
11	若年認知症の方が利用できる施設が少ない。就労中に発症されるため、就労を継続するための支援、また早期に退職しなければならなくなった場合、経済的な支援も必要になる。
12	若年のサービスがない。
13	相談窓口の明確化と周知。早期診断と早期治療の必要性の啓発。若年認知症についての周囲の理解を支える地域づくり。若年認知症者が利用しやすい介護保険内外のサービスメニューの充実(デイサービス、ホームヘルプ)。経済的支援。
14	早くサービスを受けたいのに、医療機関での診断が出ないことで障害者や高齢者等の制度の狭間で、サービスを受けられない人が多い。それぞれの制度や医療が連携をし、本人像を共通理解したうえでスムーズに制度が利用できる仕組みが必要。介護保健サービス事業所のほとんどが高齢者を対象としたものになっているため、若年の認知症の人に合うサービスが少ない。
15	経済的支援